

篠養だより



「夢と希望を抱き 心豊かに たくましく生きる子の育成 ～ 明るく いきいきと ～」
 ◇丹波篠山市立篠山養護学校 ◇丹波篠山市沢田120-1 ◇tel 552-5237 ◇fax 552-6222
 幼稚部1名 小学部20名 中学部11名 高等部13名 計45名 早期発達支援室3名 総計48名 No.2

新学期から一ヶ月が過ぎました

立夏を過ぎ、季節は春から夏へと汗ばむ季節になってきました。保護者の皆様にはご壮健にてお過ごしのことと思います。

先日、気象庁から近畿地方の梅雨入りが発表され、暫く晴れ間が見られなくなるかと思うと、少し憂鬱な気分になっているのは私だけでしょうか。また、新型コロナウイルスの感染拡大が全国的な広がりを見せる中、「緊急事態宣言」が延長（当初発出期間：4/25～5/11、延長期間：5/12～5/31）され、はや一週間が過ぎようとしています。新聞やテレビ番組では、毎日ように新規感染者数が発表され、変異ウイルスによる重症化リスク、病床不足、ワクチン接種の問題など、不安を煽る報道が続いています。

さて、新学期から一ヶ月が過ぎ、子どもたちもようやく学校生活に慣れてきた様子です。梅雨のジメジメ感も、コロナの不安も吹き飛ばすほどに、毎朝元気いっぱい姿を見せてくれます。しかしながら、感染防止対策による制約の中での生活は続いています。これだけ窮屈な生活が続くと、誰でもストレスを感じます。それは子どもたちも同じです。

ストレスには、「目に見えない、気づきにくい、蓄積される」といった特徴があります。

ぜひ、ご家庭でも、お子さまの様子に敏感になっていただきたいと思います。そして、どんな些細なことでも構いませんので、何か気になることがございましたら、何なりと学校までご相談ください。今回は少し遡りますが、4月以降の本校の取組をご紹介します。

シミュレーション研修 ～本番さながらの緊張感～

新年度を迎え、子どもも職員も新たなメンバーになりました。緊急対応に備え、4月15日(木)に「シミュレーション研修」を行いました。

- 目的：校内の緊急体制を確認するとともに職員が迅速かつ的確な行動がとれるようにする
- 参加者：全職員
- 想定：幼児児童生徒の体調が急変し、救急車の要請が必要と判断した場合
- 訓練内容：消防署への通報、AEDの使用、心肺蘇生法の実施、アクションカードの活用

本来は、訓練であっても消防署に119番通報をし、救急車の要請を行うのですが、今回はコロナ禍でもあり、要請を行ったという想定で訓練を行いました。本番さながらの緊張の中、何とか訓練を終えることができました。事後研修では、多くの意見や反省が出てきました。

ちなみに、皆さん、119番通報をしてから篠養に救急車が到着するまでの時間は、およそ何分位だと思いますか？

消防署に確認をしたところ、**到着までにかかる時間は約7分**。日本では、救急車が到着するまでにかかる平均時間は約9分といわれていますので、篠養の場合、日本の平均よりも、約2分早く到着することがわかっています。でも、大切なのは救急車が到着するまでに「何を」するかです。

今回の研修は、その「何を」「どのようにするか」を考えるよい機会となりました。



【AEDを使用し心肺蘇生法を行う職員】

防災訓練 ～素早く、安全に避難できました～

4月20日（火）に、今年度第一回目となる避難訓練を行いました。新入生にとっても、私にとっても初めての訓練でした。

今回の訓練は、1階校務員室からの出火を想定し、避難場所は運動場としました。職員の誘導のもと、誰一人逃げ遅れることなく、無事、避難することができました。

【逃げる時の注意「お・は・し・も」】

お…おさない
は…走らない
し…しゃべらない
も…もどらない



防災講話では、煙を吸わないようにするにはどうしたらよいか、何を使えば煙を防げるか、いざという時の行動について、子どもたちと一緒に考えました。



【防災担当の講話を聞く子どもたち】

オープン参観日・家庭訪問 ～お世話になりました～

4月26日（月）、27日（火）、30日（金）の3日間、オープン参観日を行いました。

今年は、複数の参観日を設定すること、参観時間を短縮（午前中の1時間程度）することで、感染防止対策をとって行いました。3日間で、23家庭27名（26日…9名、27日…3名、30日…15名）の方に参観いただきました。

子どもたちの様子を参観いただき、教職員一同、大変喜んでおります。今後とも、温かいご支援をよろしくお願ひします。

また、大型連休明けの5月6日（木）、7日（金）には、家庭訪問をお世話になりました。お子様の家庭での様子を聞かせいただき、大変参考になりました。

実態を把握し、支援体制を充実させるには、学校と家庭の「連携」は欠かせません。

私は、「連携」とは、「共有した情報をもとに、お互いが共通の目的に向かって実践すること。」だと思っています。この度の訪問で確認させていただいたことをもとに、ぜひ、学校と家庭が共通実践し、お子様の成長につなげていきたいと思ひます。



【オープン参観日 高等部 花壇の準備】

校章のいわれを知る ～8葉のササに込められた願ひ～

もう一ヶ月前の話になります。入学式で使った校旗を片づけようと校長室に持ち帰ったときのこと。私が手にしたのは、エンジ生地に銀色の「ササ」、その上に金色の「養」の刺繍が施された、重量感たっぷりの校旗でした。校章の模様が気になったので、すぐにそのいわれを調べてみことにしました。すると、次のように書かれていました。

「丹波篠山のササの葉8枚を扇状に組み合わせ、その上に「養」の字を配し、篠山養護学校を表している。120度の角度をもって末広がりになった「ササ」の葉は、常に原点に立ち返り、初心を忘れることなく、広がった将来に向かって大きくはばたくことを願っている。

また、8葉のササには、それぞれ、自主性・創造性・社会性・科学性・思考性・勤労性・現代性・国際性の伸展への願ひがこめられている。」



【「篠養」の校章】

どこかで子どもたちに伝えたいと思ひていたのですが、機会を逸してしまい、この度、このたよりを通して、お伝えすることにしました。私自身、改めて初心（原点）に返り、この校章に込められた思ひを考えてみようと思ひます。